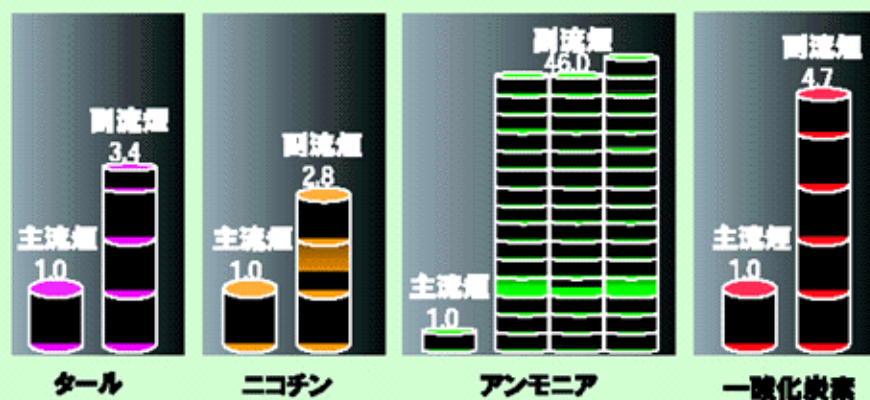


主流煙と副流煙に含まれる有害物質



(アメリカ保健教育福祉省、1975)

© 厚生労働科学・中村班 2002

主流煙と副流煙に含まれる有害物質

- タバコの煙は、喫煙により吸い口から直接吸い込まれる「主流煙」と、火のついた部分から立ち上る「副流煙」に分けられる。
- 空気を汚染するタバコの煙は、主流煙と副流煙、さらに喫煙者が吐き出す「呼出煙」が混じりあった煙からなり、「環境タバコ煙」と呼ばれている。
- 主流煙の場合は、煙はフィルターを通ることにより有害物質の一部が取り除かれるが、副流煙はフィルターを通らない。そのこともあり、多くの有害物質は、主流煙に比べて副流煙の方に約2倍から4倍以上多く含まれている。
- タバコの煙は空気中で薄まりはするが、喫煙者と一緒にいるだけで、周りにいる非喫煙者は少量のタバコを自分で吸ったのと同じような状態になってしまう。このことを「受動喫煙」という。

受動喫煙による健康影響

	確実なもの	可能性のあるもの
成人	肺がん、虚血性心疾患、副鼻腔がん	子宮頸がん、気管支喘息の悪化、呼吸機能の低下
子供	呼吸器感染症（肺炎や気管支炎など）、気管支喘息の発病と悪化、中耳炎、慢性的呼吸器症状、乳幼児突然死症候群	呼吸機能の低下
胎児 (妊婦本人の喫煙)	低体重出生、早産、周産期死亡、妊娠・分娩合併症、乳幼児突然死症候群	自然流産、先天異常、出生児の認識や行動の障害、小児がん
胎児 (妊婦以外の周囲の喫煙)	低体重出生	自然流産

(喫煙と健康 3版、保健同人社、2002をもとに作成、一部改変)

© 厚生労働科学・中村班 2002

受動喫煙による健康影響

- 受動喫煙により確実にリスクが上昇することが認められた代表的な疾患は、肺がんと虚血性心疾患である。
- 子供への受動喫煙の影響としては、肺炎や気管支炎などの呼吸器感染症、気管支喘息の発病と悪化、咳などの慢性呼吸器症状および中耳炎がある。また、出生後の受動喫煙は乳幼児突然死症候群のリスクを高める。
- 妊婦本人が喫煙した場合の胎児への影響としては、低体重出生をはじめ、早産、周産期死亡、妊娠・分娩合併症(胎盤早期剥離や前置胎盤など)がある。また、妊娠中の喫煙は乳幼児突然死症候群のリスクを高める。
- 妊婦本人が喫煙しなくても、夫などによる妊婦への受動喫煙により低体重出生のリスクが高まる。